

# 国際産学地域連携PBL

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年12月12日 ～2019年12月20日	日本	キングモンクット工科大学 トンプリ校 スラナリー工科大学 スラバヤ工科大学 ハノイ理工科大学 マレーシアプトラ大学 モンゴル工業技術大学 シンガポール国立大学 マレーシア工科大学 中国地質大学 マウア工科大学 明志科技大学 ナコーンラーチャシー マーラーチャバット大学 プリンスソングラ大学 ランシット大学 パラナ連邦工科大学 武漢理工大学 浙江工商大学 チュラーロンコーン大学 KLS ゴグト工科大学 ヴァンデシュヘイム大学	【学科】 電子情報システム学科、 機械制御システム学科、 環境システム学科  【学年】 学部3年生、学部4年生、 修士1年生、修士2年生、 博士1年生、博士2年生	(芝浦工業大学) 学生38名、TA6名、教 員4名、職員2名 (海外協定校) 学生40名	井上 雅裕 (電子情報システム学科)、 長谷川 浩志 (機械制御システム学科)、 間野 一則 (電子情報システム学科)、 除村 健俊 (電子情報システム学科)



図1 グループワーク風景1

システム理工学部、大学院理工学研究科システム理工学専攻では、システム思考の工学(システム工学)教育プログラムを学部・大学院専攻のコア科目として実施(社会人基礎力を育成する授業30選に選定)している。この教育プログラムの集大成となるプロジェクトがCross-cultural Engineering Project (CEP)である。CEPは、日本、東南アジア、ヨーロッパの3地域で実施されている。大宮キャンパスで開催される。CEPは、多国籍・多分野の学生が産学地域連携課題を取り扱う。東南アジア地域はタイのバンコクで実施し、グローバル課題を対象にする。ヨーロッパ地域は、ポルトガルのリスボンで実施し、イノベーション創出を課題としている。これら3地域のどれかを履修することで単位取得ができる。本年度は、12月12日から20日まで大宮キャンパスと那須高原で実施され、世界12の国・地域、25大学・1企業から集まった88人が14チームに分かれて、分野混成、多国籍チームによるプロジェクトを実施した。プロジェクト課題は、ホンダ、リコーといった大企業からベンチャー企業、地域自治体の抱える12課題と2課題のフリー課題で構成された。また、プログラムの中盤では、那須高原で2泊3日の変化対応力を養う「インプロビゼーション教育」、ギョエー体験が那須地区の企業・団体、MaaS(Mobility as a Service)関連企業との連携により4つのワークショップが行われた。以上、各プロジェクトチームの提案内容は、魅力的なものが多く好評を博し、インプロビゼーション教育として実施したワークショップの成果物についても、下野新聞や日経新聞で取り上げられるなど素晴らしい結果であった。参加学生たちにとっては、有意義な経験と多国籍・多文化交流ができたものとする。



図2 グループワーク風景2



図3 プレゼンテーション



図4 お昼